

第3章 対象地区のまちづくりにおける課題

1. 対象地区における問題解決とニーズへの対応に向けた視点

対象地区は、土地区画整理事業による住宅地や商業地としての環境整備が行われていることに加え、JR行田駅と中心市街地は公共交通によるネットワークが形成されているほか、自家用車によるアクセスも良く、交通利便性が高いという特性があります。

また、JR行田駅は通勤・通学利用者や、本市に訪訪する観光客にとっての玄関口となっており、対象地区は多くの人々が行き交う場としての役割を担っています。

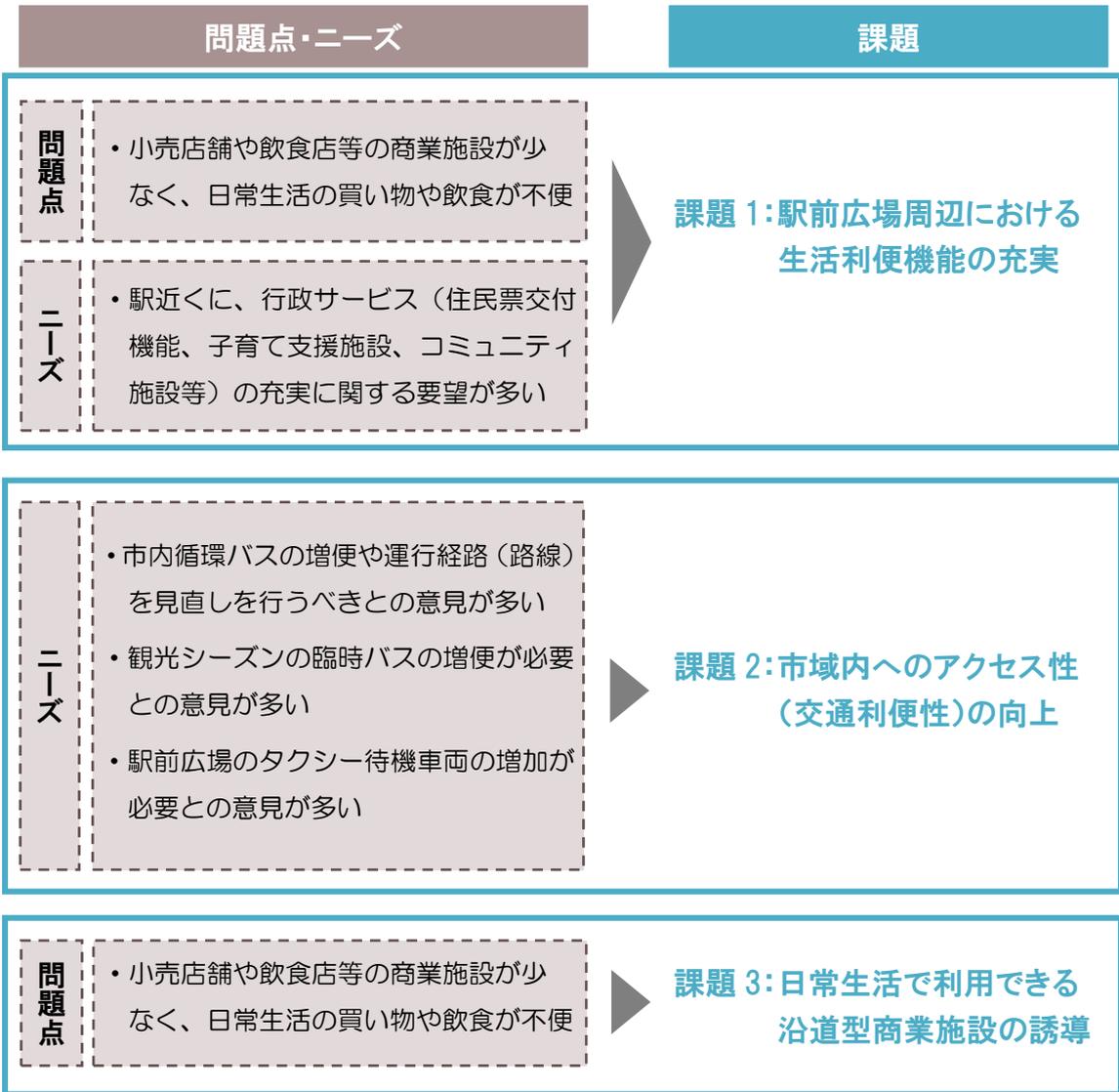
一方で、前章で整理した対象地区の現況からは、これらの特性を有効活用する上で、改善すべき問題や様々なニーズが上がっています。

今後のまちづくりにおいては、JR行田駅の利便性を最大限に活かした『快適』性、市の南の玄関口としての『交流』や『にぎわい』や地域住民や来訪者が行田らしさを感じる『まち並み』を創出し、『安心・安全』な住みよい環境をつくるため、5つの視点から問題解決やニーズへの対応に向けた取組みが必要となっています。

① 「快適」に関する視点



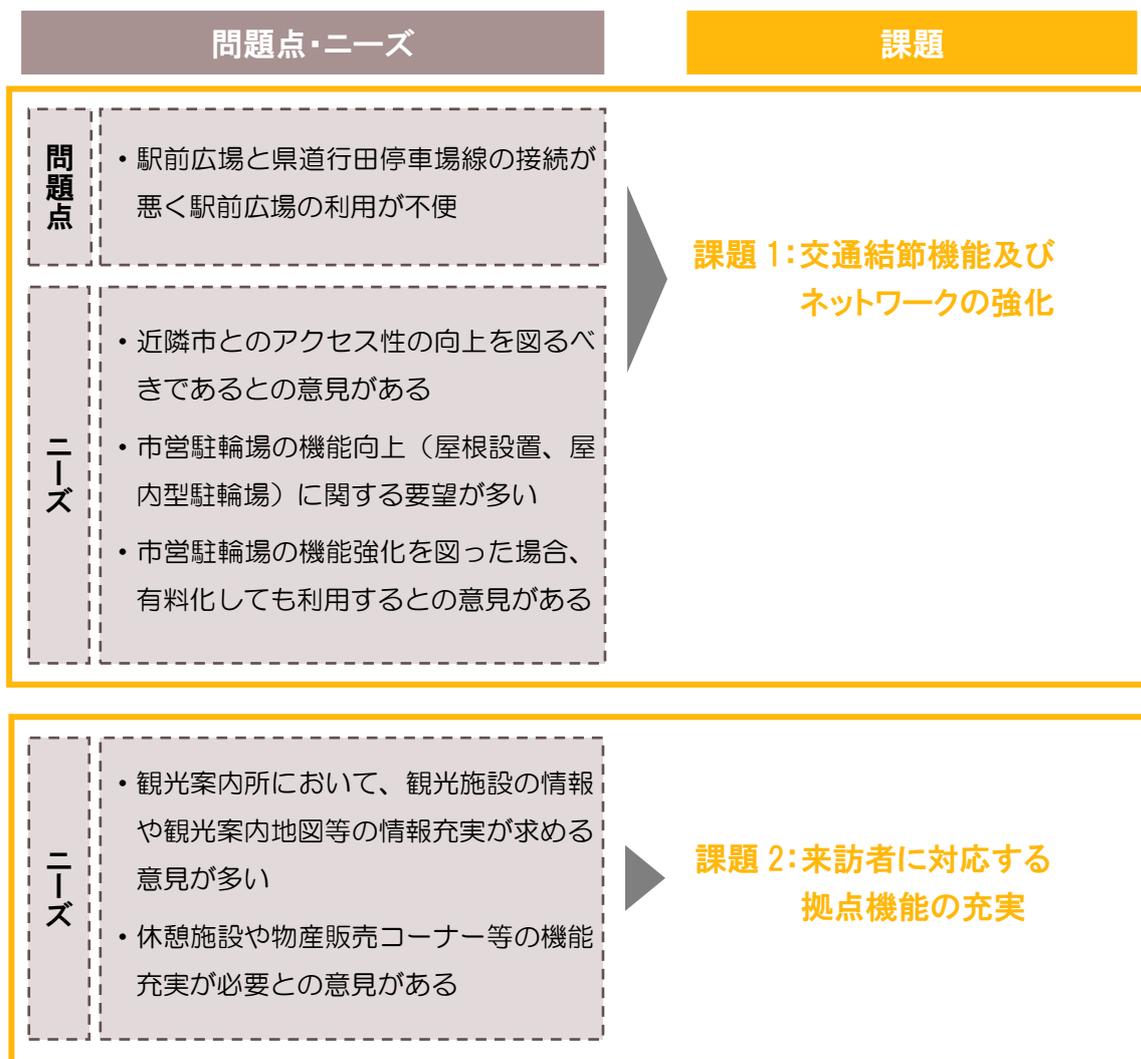
地域住民やJR行田駅利用者などの日常生活の利便施設や移動など、快適性の確保において、次のような課題が生じています。



② 「交流」に関する視点

交流

市の南の玄関口としての交通結節機能や観光客の情報収集等の交流の促進において、次のような課題が生じています。



③ 「にぎわい」に関する視点



地域住民や来訪者が集い、憩う場、にぎわいの創出においては、次のような課題が生じています。

| 問題点・ニーズ | | 課題 |
|---------|---|-----------------------|
| 問題点 | <ul style="list-style-type: none">・宅地化が進まず、駐車場や空き地が増えており、にぎわいが不足している | 課題 1: 居住促進に向けた環境づくり |
| ニーズ | <ul style="list-style-type: none">・駅前広場などでイベント等を開催し、来訪者と交流できる場の形成が必要との意見が多い | 課題 2: 駅前広場でのにぎわい空間の創出 |
| 問題点 | <ul style="list-style-type: none">・地域住民の憩いの場である壱里山公園の利用者数が少ない | 課題 3: 地域住民の憩いの場の形成 |
| ニーズ | <ul style="list-style-type: none">・壱里山公園は、移転も視野に入れ、遊具や緑の充実を図ると良いとの意見がある | |

④ 「まち並み」に関する視点



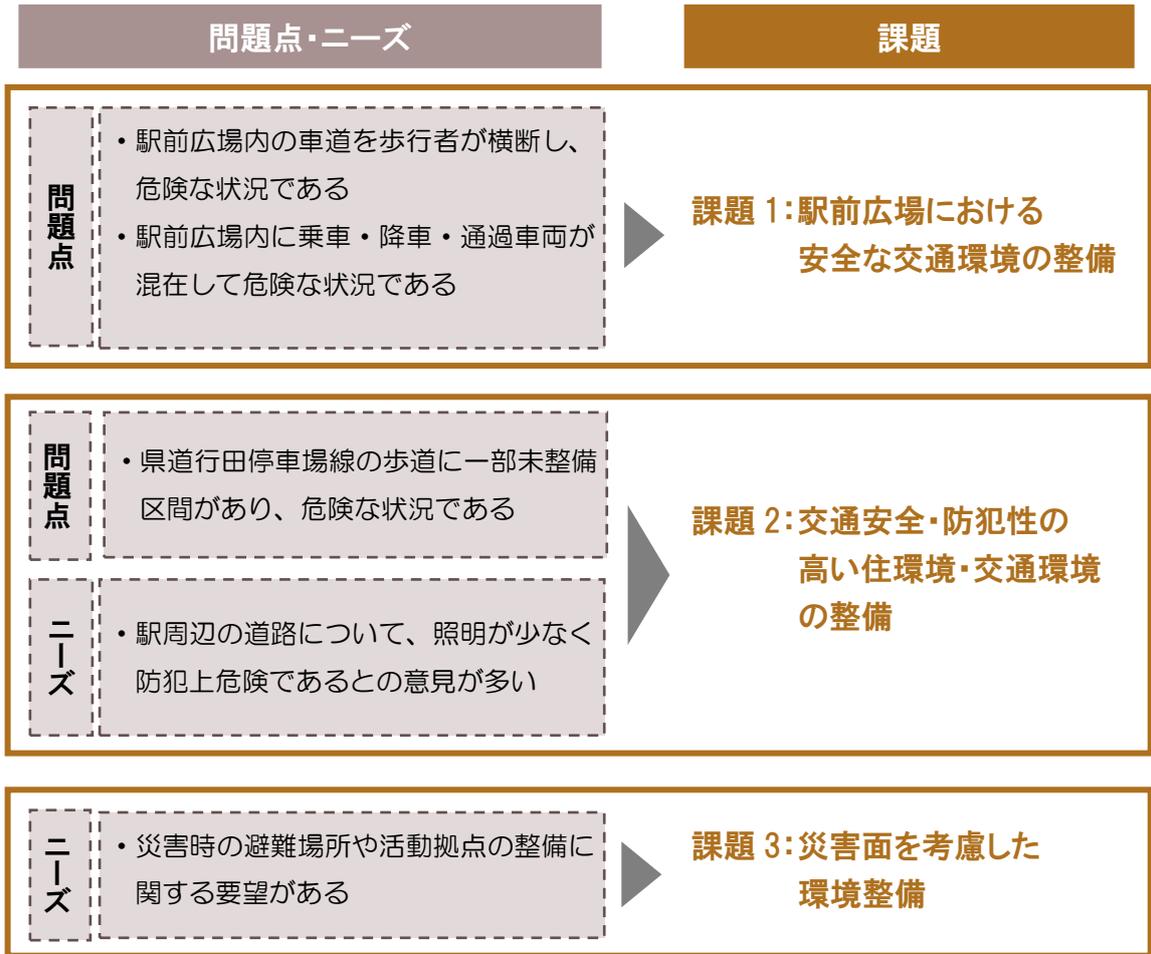
住環境としてのまち並みや市の南の玄関口として来訪者が行田らしさを感じるようなまち並みにおいて、次のような課題が生じています。

| 問題点・ニーズ | 課題 |
|--|--|
| <p>ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅地等の緑化整備によるゆとりある住環境の形成が必要との意見がある | <p>課題1: 緑豊かなまち並み 景観の形成</p> |
| <p>ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅前広場について、来訪者が行田らしさを感じるようなモニュメント等を設置すべきとの意見が多い | <p>課題2: 駅前広場における 行田らしさを感じる 景観形成</p> |
| <p>ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 植栽や植樹等の緑化整備に加え、駅前のシンボル通りとしての、さらなる景観整備が必要との意見が多い | <p>課題3: 中心市街地へと続く 駅前通りにおける シンボリックな景観形成</p> |

⑤ 「安全・安心」に関する視点



駅前広場での交通安全面や、対象地区内の防犯面等の安心面において、次のような課題が生じています。



2. 対象地区における解決すべき課題

「快適」、「交流」、「にぎわい」、「まち並み」、「安心・安全」の5つの視点からみた、対象地区の問題解決に向けた課題を整理します。

快適

課題1 : 地域住民、来訪者ともに快適に利用できる 駅前広場周辺における生活利便機能の充実

鉄道駅の利便性を活かし、行政サービス機能や商業施設などの生活利便機能の集積による利便性の向上が必要です。

課題2 : 市域内でのアクセス性向上

JR行田駅と中心市街地や点在する観光地間を快適に周遊できるバス・タクシー等の公共交通による、アクセス性の向上を図ることが必要です。

課題3 : 地域住民が日常生活で利用できる沿道型 商業施設の誘導

県道行田停車場線沿線や駅前広場前面の市道沿線は、商業施設の誘導による利便性の向上が必要です。

交流

課題1 : 交通結節機能及びネットワークの強化

駅前広場や市営駐輪場における交通結節点としての機能強化に加え、対象地区に隣接する熊谷市、鴻巣市など近隣市との広域的なネットワーク強化による、JR行田駅へのアクセス性の向上が必要です。

課題2 : 来訪者に対応した拠点機能の充実

市の南の玄関口として、観光案内所における情報案内の充実や来訪者のニーズに応じた機能の拡充が必要です。

にぎ
わい

課題1 : 居住促進に向けた環境づくり

多くの人々が住みたくくなるような良好な住環境を形成し、居住人口の維持・増加を図ることで、地域コミュニティのにぎわいを創出することが必要です。

課題2 : 来訪者の集まる駅前広場でのにぎわい空間の創出

駅前広場でのイベント等の開催により地域住民と来訪者がともに楽しむことができる憩いの場の形成が必要です。

課題3 : 地域住民の憩いの場の形成

壱里山公園をより多くの人々が利用したくなるよう、機能の強化に向けた整備が必要です。

まち
並み

課題1 : 緑豊かなまち並み景観の形成

県道行田停車場線沿線や住宅地等において、地域住民の生活にゆとりと潤いを与える緑化等のまち並み整備が必要です。

課題2 : 駅前広場における行田らしさを感じる景観形成

JR行田駅を降りた来訪者が、行田の歴史や文化を感じることができるような、市の南の玄関口にふさわしい景観形成が必要です。

**課題3 : 中心市街地へと続く駅前通りにおける
シンボリックな景観形成**

県道行田停車場線は、JR行田駅と中心市街地を結ぶシンボル通りとして、多くの人に親しまれる景観形成が必要です。

安心
安全**課題1 : 駅前広場における安全な交通環境の整備**

駅前広場内を歩行者・車両ともに安全に通行・走行できるよう動線を工夫する必要があります。

課題2 : 交通安全・防犯性の高い住環境・交通環境の整備

誰もが支障なく快適に使用することができ、防犯性にも配慮した道路交通環境の形成が必要です。

課題3 : 災害面を考慮した環境整備

荒川氾濫時や地震発生時に避難できる場所、活動拠点となる場所を確保するなど、災害に強いまちづくりが必要です。

第1章

はじめに

第2章

対象地区の概況

第3章

対象地区のまち
づくりにおける課題

第4章

対象地区のまち
づくりに向けた方針

第5章

JR 行田駅前広場
周辺再整備計画

第6章

事業推進に向けて

参考資料

